

## 大学共通の「3つのポリシー」について

アドミッションポリシー	<p>中部学院大学は、建学の精神を「神を畏れることは知識のはじめである」としています。「神を畏れる」とは、神を敬うということ、そして神が創造された人（自分と他者）を愛し、自然を大切にすることです。そのことを理解することから、平和と自由をもたらす真の知識が拓かれると考えます。</p> <p>この建学の精神と志望する研究科・学部・学科の教育目標や特色を理解しつつ、未来に向かって積極的に学ぶ学生、傾聴し対話しようと努力する学生、地域と人類の福祉（human well-being）に貢献することを望む学生を、本学は求めます。</p>
カリキュラムポリシー	<p>中部学院大学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>基礎的な教養科目から専門的な学科科目まで、学生が幅広い視野と深い専門知識を修得できるカリキュラムを提供します。建学の精神に基づき、倫理教育や宗教理解も重視し、全人的な成長を促します。</p> <p>本学に配置された研究科・学部・学科の教育目標に合わせた専門科目を体系的に配置し、実践的なスキルの習得を支援します。また、地域社会やグローバルな視点を持つための科目を導入し、社会貢献と国際理解を深める教育を行います。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>学生の主体的な学びを促進するため、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワークなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に導入します。これにより、学生の自律的な学びを支援し、実践力を養います。</p> <p>多様な価値観を尊重し、チームワークを重視したプロジェクト型学習を取り入れ、協力し合いながら問題解決に取り組む姿勢を育成します。さらに、ICTを活用したハイブリッドな授業形態を採用し、柔軟な学習環境を提供します。</p> <p>3. 教育評価</p> <p>学生の学びの成果を適切に評価するため、多様な評価手法を導入します。筆記試験やレポートだけでなく、プレゼンテーション、プロジェクト成果物やeポートフォリオなど、実践的な評価方法を用います。</p> <p>定期的なフィードバックを通じて、学生の学習プロセスをサポートし、自己評価と相互評価を組み合わせることで、学びの深化を図ります。さらに、授業の改善を目的とした授業評価アンケートを実施し、学生の意見を反映した教育の質向上を目指します。</p> <p>これらの方針に基づき、中部学院大学は、学生一人ひとりの可能性を最大限に引き</p>

	<p>出し、医療、教育、福祉、健康のそれぞれの分野にて地域と人類の福祉 (human well-being) に貢献する人材を育成します。</p>
<p>ディプロマ ポリシー</p>	<p>中部学院大学は、建学の精神のもとに、本学に配置された研究科・学部・学科の教育課程を修め、定められた単位取得と必修科目等の取得条件を満たした上で、幅広い教養と深い専門知識・技術を修得し、それぞれの専門職にふさわしい実践力の基礎を持った人材として、以下の資質を身に付けた者に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自律的で意欲的な態度 自らの学びを主体的に進めることができる態度を持ち、自らの目標を設定し、その達成に向けて意欲的に取り組む姿勢を持つこと。</li> <li>2. 社会や他者に能動的に貢献する姿勢 社会や他者に対して積極的に貢献しようとする意欲を持ち、地域社会やグローバルな視点での課題解決に取り組む姿勢を持つこと。</li> <li>3. 対象理解のためのチームワーク構築 多様な背景を持つ他者と協力し合い、共通の目標達成のために効果的なチームワークを構築する能力を持つこと。</li> <li>4. 問題発見・解決力の発揮 複雑な問題を見つけ出し、それに対して適切な解決策を考え、実行する能力を持つこと。批判的思考と創造的思考を用いて、柔軟に対応する姿勢を持つこと。</li> <li>5. コミュニケーション・スキルによる協調・協働 多様な価値観や意見を尊重しながら、効果的なコミュニケーションを通じて他者と協力し、共に働く能力を持つこと。</li> <li>6. 専門的知識・技能の総合的な活用 自身の専門分野における深い知識と技術を持ち、それを総合的に活用して実践的な課題解決に貢献する能力を持つこと。</li> </ol> <p>これらの資質を持つことで、卒業後も医療、教育、福祉、健康のそれぞれの分野にて地域と人類の福祉 (human well-being) に貢献し続けることができる人材を育成することを目指します。</p>